

山田地区 地域説明会 会議録（概要）

- 日 時 令和 8 年 6 月 29 日（月）19：00～20：25
- 場 所 山田公民館 2 階 大会議室
- 参加者 地域住民 7 名
- 傍聴者 （オブザーバー）市議会議員 4 名、報道関係者 1 名

1 再編準備委員会の設置等について

事務局 資料に基づき説明

2 質疑・応答

住民 A: 教育現場で実際に子どもたちを指導している経験からお話しします。大規模で多様性のある環境での教育効果は理解できますが、少人数であっても、手厚く指導することで非常に高い教育効果が上がると実感しています。少人数の教育効果がないとは一面的な見方ではないでしょうか。

また、小学校は教育の場であるだけでなく、地域住民の心の拠り所であり活動拠点です。老朽化の懸念はあっても、小学校は地域の拠点として残すべきだと考えます。少人数教育の効果について、また地域の拠点・心のふるさととしての学校のあり方についての 2 点をお伺いします。

事務局: 少人数での教育効果がないとは考えておりません。しかし、予測困難なこれからの時代において、様々な地域課題の解決や、郷土愛を持って地域を活性化させる子どもたちを育てるためには、一定規模の多様性が必要だと考えております。勉強面や個性を伸ばす点では少人数でも効果はありますが、多様な価値観に触れ、他者と折り合いをつけながら社会性を育む教育を目指すうえでは、一定の規模が必要という方針で進めております。

もう一つの、活動拠点など地域の集まる場所としての学校の機能についてですが、利活用の検討においては、これまでどおりに活動ができるように最大限配慮してまいりたいと思っております。夏祭りの盆踊り大会などは学校の運動場を使用されていると思います。また、普段から地域の方が集まったり、子どもたちがスポーツで体育館を使ったりしているとも聞いております。そういった活動が継続されて、地域の方が集まる機会が減らないように配慮しながら、活用方法を決めていきたいと思っております。

住民 B: 私は同級生ともにいい大学に行っている人が多いと思っていて、やっぱり玉野の教育はいいなと思っています。子どもの数が減っている中で、社会性を学べるようにたくさん集まるのが良いから合併した方が良いというのはその通りだと思っています。むしろ、地域の魅力や価値が下がるから統合してほしくないという思いがあるのではないのでしょうか。例えば山田小学校がなくなるといふ噂で、地価が半分になったという話も聞いていて、地域の人にお話を聞いていると、今の小学校に自分の孫を入れるのは少し不安だから、友だちをたくさん作るために大人数のところに行ってほしいという方もい

たので、子どもにとって大人数の方が良いというのはそうかもしれません。しかし、地域にとって小学校がないというのは、その地域の魅力みたいなどころに問題があるんじゃないかとも思います。小学校はなくなるけれど、対策を講じて地域の魅力を残していくということは考えているのでしょうか。また、先ほど質問された方から「心のふるさと」というお話がありましたが、私は山田小学校で塩の勉強をして、この町に生きているのだと実感した経験があります。現在の小学校だからできていた教育は、今後どのように残していくお考えなのか知りたいです。

さらに、説明の中で、利活用は閉校が決まったら動くと言われましたが、鉾立小学校をイベントで利用したいと思ってお声がけした時に、運動場は使えるけれど校舎は使えないと言われました。もっと早い段階から利活用を計画しておかないと、結局使えない形になってしまうのではないかと考えています。他市では様々な活用の事例が聞かれますが、本市もこれから空き校舎が増えるので、市全体として「校舎は私たちの資産です」というような前向きな形で、もっと計画的に検討できないかお聞きしたいです。

事務局： 今言われたように、山田地域でも去年ワークショップを行ったりして、地域をどうしていくかといったことは担当課でも進めているところです。市の総合計画においても、地域ごとの個別の計画はありませんが、住み慣れた地域で生き生きと日常が送れるように、また地域の顔を持ち続けられるような地域づくりについて計画の中で掲げられています。

地域の課題解決に向けては、空き家対策や公共交通など、他部署とも連携し、日常生活で困ることが少なく、外からも入ってきやすいように対策を行っているところです。

また、地域の魅力づくりについては、歴史ある建物の観光価値や景観の良さなどを活かし、自転車を活用したまちづくりなどとも連携してエリア全体の魅力を高めていきたいと考えております。

住民 B： 地域の魅力は理解していますが、住む理由が減ってしまうことへの懸念があります。早く計画してほしいというよりは、市が主導権を持って計画的に進める選択肢もあるのではないかとということです。

廃校後の利活用について、校舎が余ってからどうするか考えるのは後ろ向きだと感じます。山田中学校も閉校が決まってると思いますが、あの立地であの景色があるのに、一旦閉めてから募集するというやり方では、結局活用されない可能性があり不安です。観光面だけでなく、住む理由の一つである小学校がなくなる代わりとなるものを何か考えておられますか。

事務局： 新たな魅力というのは観光など市全体で考えていけないといけないところですが、学校が遠くなることで保護者の方や住民の方が不安に思われるのは、活動の場がなくなることや通学の不安などがあるからだと思います。少しでも不安を解消して地域の魅力が落ちないような取り組みはしっかり行って

まいります。

また、跡地活用の進め方については、事前に案を示した方が良いというご意見がある一方で、学校がなくなることを受け入れ難く、閉校自体をしっかり考えたいという方も多くいらっしゃいます。両方の意見があるのは承知しておりますが、学校再編が決まった後に皆様との協議をスタートしたいというのが現時点での考えです。

住民 A： 今お話を聞いていると、統廃合ありきで議論がずっと進んでいっているようですが、果たしてそれで良いのかなと思います。安全や交通面を配慮すると言われましたが、小学1年生が歩いて遠くから行くことになります。スクールバスのことも言われましたが、百歩譲って統廃合するにしても、せめて低学年は分校という形で残してほしい。高学年になれば統廃合もしようがないし、歩いていけるだろうと思います。低学年の子どもたちに対してはよりきめ細やかな指導が必要になってくると思います。

また、なぜ統合先が胸上小学校なのでしょう。ハザードマップを見ましたが、胸上小学校の方が低い場所にあり、地震等で大きい津波が来た時は胸上小学校の方が危険です。山田小学校の方が安全ですし、東分署がすぐ近くにあり、校舎も山田小学校の方が新しくいいだろうと思います。

今後、人口減少を食い止めるためには、市への移住者を増やす政策が必要だと思います。今あるものを活かして活性化するだけでなく、新しく魅力あるまちづくりを行い、移住してきた方々と一緒に地域を盛り上げていくことが大切です。外からも新しい人材をどんどん呼び込むことも必要ではないでしょうか。子どもたちが一度は外へ出て、またこの魅力あるまちに帰ってきたいと思えるような取り組みにしていきたいと思いますし、地域の活性化につながるような統合であってほしいと願っています。

事務局： まず、分校として残した方が良いとのご意見は貴重なご意見としてお伺いさせていただきます。一方で、小学校の通学距離の基準として、国は4 km以内を徒歩の目安として示しています。ただ本市においては、低学年が暑い中通うことへの問題提起を踏まえ、全国の基準よりも短い2 km以内という形で設定させていただいております。今後再編を進めるにあたりましては、通学路の安全安心の確保は必要なことですので、可能な限り現場に足を運ぶのはもちろん、歩道・カーブミラー・街灯等の整備を所管課と調整しながら、進めていきます。

また、胸上小学校をなぜ統合先にしたかについてですが、地理的、距離的な条件に加え、3校を統合した場合に、山田小学校だと教室が2部屋足りないということがあります。一方で、胸上小学校は教室数が十分にあるため、胸上小学校を基本とする再編にしております。

人口減少に関して、外から新しい人を連れてくる取り組みも必要ではないかという点ですが、人口減少の原因の一つとして、外に出て行く人が多いこ

とがあります。市全体でここ5年間を見ると、年間800人強ほど人口が減っておりますが、そのうち亡くなる方と生まれてくる子どもの差である自然減が600～700人、外から入ってくる人と出て行く人の差である社会減が100～200人程度となっております。少子化対策も行っておりますが、急に成果が上がるものではありません。今おっしゃられたように、市の魅力をしっかり伝えて移住してきてもらうことは効果も早く見込めますし、取り組まなければならないことだと思っております。

住民 C: 山田小と胸上小の統合はもう決まっていますか。

事務局: まだ決まっていません。

住民 C: まだ決まっていないんですね。

事務局: 現在、再編に向けて一定程度ご理解いただくという形で、まずは保護者説明会をこれまで5回開催させていただきました。次に地域の方々に順に説明会を開催させていただく形で進めておりますが、基本的に教育委員会としては、計画に則った再編を進めていきたいと考えております。

住民 C: 進めていくだけの工程に感じます。統合するのであれば、スクールバスで通学する場合、どこへ集まるのか計画してもらわないといけません。

また、地域に若い世代が移住してきたいとなっても、地域に小学校がないと来てくれなくなるのではないかと思います。地域活性化と若者の移住を考えて、山田小学校はぜひ残してほしいです。

事務局: バス通学の乗り場については、基本的には路線バスを活用することになりますので、バス停に行ってくださいようになります。路線バスが走っていないエリアについてはタクシーを活用することを想定しています。

また、歴史ある小学校ということで地域の拠点として残してほしいというご要望は承知しております。一方で、保護者は当事者ですので、ここまで児童数が少なくなっている状況だと、やはり一定規模の学校で自分の子どもを学ばせたいという方もいらっしゃいます。あるいは、自分たちの育った時代とは違うので、時代の流れには逆らえないというようなご意見もございます。

住民 D: 私は小規模校の方が絶対に良いと思います。切磋琢磨するのも良いですが、人数が増えることによっていじめも発生し、登校拒否も出てくるのではないかと思います。

事務局: 確かに目が届きやすい部分はあろうかと思いますが、少ない人数の場合は、人間関係が固定化してしまうと逃げ場なくなる部分もあるので、どちらが良いかはなかなか言いにくい部分もあります。先ほど地域学習がなくなってしまうのではないかというお話がありましたが、それぞれの学校で大切にしてきた地域学習については、学校が再編した場合においても、大切にしていこうという方向性ですので、消えていくということにならないよう、資料集等を作る時にも意識しながら行っています。

住民 B: 私たちの時代は、自分自身で地域学習の内容を選んでいました。今後はそう

ということが難しくなるのではないかと思います。各地域にはそれぞれの魅力や歴史があります。統合によって分散してしまうと、それぞれの地域の魅力や歴史をどうやって伝えていくのかを、しっかり考えていく必要があるのではないのでしょうか。

事務局： 居住地域の歴史を学ぶことについて、資料をきちんと残していこうという話は、小学校にも伝えているところです。

住民 B： 先ほど部屋が足りないとおっしゃっていましたが、放課後児童クラブの部屋は昼間空いているのではないのでしょうか。また、タブレットを使うようになったので、パソコン教室が活用できるかもしれないといった形で、現在の小学校の部屋数を工夫して使えば、山田小学校でも良いということはありませんか。

事務局： 現在すでに胸上小学校は放課後児童クラブで2部屋使っているのですが、そこは放課後児童クラブ用の仕様になっているため、通常の教室として使用することはなかなか難しいと思います。また、パソコン教室などもタブレットが導入されて数年経っており、すでに各学校でいろんな活用の仕方をしております。そういった部屋を活用したとしても、山田小学校では部屋数が足りません。また、胸上小学校には通級指導教室を設置しており、そちらで2部屋ほど必要なことと、特別支援学級が数教室分必要ですので、すべてを加味しても、やはり胸上小学校でしか対応が難しいということです。

住民 E： 山田小学校は、自分の生まれ育ったところの魅力を地域の人と関わりながら学べるというところがすごく良かったです。それが別の小学校に行ったとしても、同じようにできるのででしょうか。例えば校外学習などでバスでみんなで来て、自分の住んでいるところを引き続き学ぶことができるのか、そういう学びがあれば良いなと思っています。

事務局： 子どもたちの興味関心に応じて、できるだけ現地で学ぶというところは重視していきたいと考えています。また、再編計画の中にも地域のことを学ぶための学校行事を計画していくことを位置づいているので、そこは意識しながら、新しい学校づくりを考えていきたいと思っています。

住民 A： 先日、小学校の体育館で地域住民と子どもたちが共に学び、触れ合って交流する新しいスポーツレク大会をやりましたが、統合したとしても地域住民と子どもたちが触れ合って学び合えるような学習ができるのかどうか教えてください。

事務局： 今ここで、具体的な学習内容をお答えするのは難しいですが、先ほどお伝えしたとおり、再編の方針の中にも地域行事や地域学習を大切に進めていくことが位置づけられておりますので、それぞれの地域の伝統がしっかり継承されるよう、検討していきます。

住民 F： 閉校するとはまだ決まっていないと言いますが、小学校を1校閉校したらどれぐらい予算が減るのですか。

- 事務局： 正確な数字は手元に細かい資料がないのでわかりませんが、1校あたりの学校運営経費というのが約1,200万円掛かっています。それをそのまま使わなくしてしまうのではなく、今まで足りていなかった部分に追加して、もう少し教育環境を充実させていきたいというのが教育委員会の思いです。
- 一方で、学校を維持していくためには、施設を定期的に改修・修繕していく経費が必要であり、そのような予算は不要になります。
- 学校の建物は60%以上が昭和60年以前の建物になっているため、長寿命化という大規模な改修をしていかなければならない状況です。
- 住民 F： まだ山田小学校は新しいでしょう。
- 事務局： 山田小学校は平成6年3月に建築しており、胸上小学校よりはまだ新しいです。
- 住民 B： 山田小学校でプレハブでも良いから追加で部屋を作った方が安くないですか。
- 事務局： 現在の小学校を拠点として作るのであれば、運動場を潰して作るのかなど、いろんな検討が必要になります。胸上小学校ですと教室が足りている状況の中で拠点校として残していけますし、胸上小学校を拠点とする再編整備計画にしているということです。
- 住民 B： 胸上小は何年後に改修しなければいけないのでしょうか。
- 事務局： 胸上小学校につきましては、今年度、長寿命化に向けて調査費の予算を計上しております。その調査結果が出た段階で、具体的に何年度から工事を進めるか決めていくことになっております。
- 住民 A： バリアフリー化やICT機器に対応するように改修するとホームページにありましたが、具体的にバリアフリー化はどういうことを考えているのですか。
- 事務局： 教育予算の充実につきましては、具体的な期日は設けていませんが、胸上小学校ですと、長寿命化に合わせてバリアフリー化やICT機器の導入といったことも併せて検討していくということになるかと思います。
- 住民 A： まだ具体的には決まってないのですか。
- 事務局： はい。
- 住民 B： スクールバスを出すのであれば、胸上小学校でも山田小学校でもどちらの学校を拠点にしても条件は同じだと思います。統合先である学校の長寿命化調査に予算がついてしまったら、後から山田小学校へ変更することはできなくなるのではないのでしょうか。すでに統合先で決定して調査が進んでいるから変更できないということですか。
- 事務局： 教育委員会としては、対象エリアのほぼ中心地に位置する胸上小学校がふさわしいと考えて計画を進めております。山田地域の皆様には山田小学校への思いがあるとは思いますが、教室数の問題等も加味したうえで計画を立てております。
- 住民 B： 運動場の話であれば、ウサギ小屋だったり倉庫だったり、移動できるものが

あるし、プレハブで対応できるかもしれない。真庭市の規模感で考えた場合、どちらの学校が中心でもそこまで大きな差はないように感じます。

事務局： 山田小学校と胸上小学校の距離は2 kmぐらいしか離れていません。真庭市の規模感でいくと、隣の小学校まで10 数kmありますので、その規模感とはなかなか比較ができないと思います。真庭市ぐらいの規模感になると、玉野市では相当な小学校を減らすことになってしまいます。そのため、本市の計画では、通学時に山を越えるといった地理的負担を避け、バスを利用してもそこまでの長距離通学にならない程度の範囲に収めるという考え方で進めておりますので、ご理解いただければと思います。

教育長： まず、予定していた時間を超過しまして、大変申し訳ありません。様々な貴重なご意見をいただきました。地域の皆様が子どもたちを思う気持ちであったり、地域の拠点である学校を思う気持ちというのは本当によく理解しているつもりであります。

しかしながら、これだけ子どもの数が減り、今後も減っていくという状況の中で、社会も大きく変化し、教育内容も変わっていきます。教育委員会といったしましては、こうした状況下で子どもたちの学びを充実させるためには、やはり一定規模が必要だという教育的視点から計画を立てております。本日も地域の皆様、保護者の皆様に説明をさせていただき、一定のご理解をいただくためにこの場を設けさせていただきました。発言がなかった方もいらっしゃると思いますが、学校を残してほしいという気持ちが強いというのもよく分かります。ただ、やはり子どもたちのために、なんとか一定の規模を維持し、統合して良くなったと言われるように、今後も全力で取り組んで参ります。今日の説明会だけでご理解いただいたとは、当然思っておりません。明日も説明会をさせていただき、ご意見を聞かせていただいて、一定のご理解をいただいたところで、次のステップに進んでいこうと思っております。本日はどうもありがとうございました。